COVID-19 流行下における呼吸機能検査の要求度を検証する（第 2 報）

◎笹嶋 優子[1)]、島本 亜耶[1)]、兼松 健也[1)]、鈴木 紫帆[1)]、瀬川 宗親[1)]、中村 文子[1)]、杉原 匡美[1)]
順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター 臨床検査科[1)]

【背景と目的】2020 年から本邦では COVID-19 の流行が続いている。呼吸機能検査は飛沫曝露のリスクが高いが、当科では当初から検査の受け入れを抑制せず、感染対策を徹底して全依頼に対応している。私共は、1 報で日本呼吸器学会提言（提言）直後に%VC や FEV1%が 60%以下の患者群の来院が有意に減少したことを報告したがその後、感染者が急増し厳しい医療状況となった。そこで、当センターの呼吸機能検査の実施動向から、COVID-19 流行下における本検査の要求度を検証した。

【対象と方法】調査対象は、2019 年 4 月から 2021 年 11 月に当科で呼吸機能検査を実施したのべ 4,235 件である。非流行期であった 2019 年度（1,458 件）、提言後流行期の 2020 年度（1,143 件）、最流行期の 2021 年度（1,634 件）に分け、1,000 患者あたり実施数や手術前検査の実施状況を比較した。VC ・ FVC 測定をスクリーニング、これに FRC や DLco 等を実施した場合を精査とし、呼吸器内科患者における実施率や各項目の測定値を比較した。検査はオートスパイロメータ System21（ミナト）を使用した。なお、当科では 2020 年 4 月より全術前患者の SARS-CoV-2 遺伝子検査を院内で実施している。

【結果】患者群の年齢層や男女比に有意差はなかった。検査数は 2021 年度で有意に増加し、1,000 患者あたりの件数は 2020 年度の約 2 倍であった。手術前スクリーニングの実施率は経時的に上昇し、2021 年度は 66%であった。呼吸器内科患者における精査の実施率に有意差は認められなかった。FEV1%が 70%未満の患者は、2019、2020 年度が約 44%であったのに対し、2021 年度は 34%であった。一方、%DLco/VA が 70%未満では、2020 年度以前の 60%から 2021 年度は 67%に上昇した。

【考察】提言後に減少した検査数は 2021 年度に回復し、最流行を迎えても検査の出し控えがないことが確認された。また、術前スクリーニングや呼吸器内科患者の精査も積極的に実施された。COVID-19 流行下も呼吸機能検査の要求度は高く、検査室は安心・安全な検査体制を構築し、臨床の依頼に応じる必要と考えられた。

連絡先：03-5632-3111